

感染対策の機能不全を考える 平時のうちに備えるのが危機管理

この原稿を書いている23年12月末では新型コロナウイルスが流行し、ノロウイルスの食中毒が発生し、子どもたちの間ではプール熱による学級閉鎖もありました。23年は鳥インフルエンザによって全国で鶏卵がなくなつたため、行列で入手する事態が続き、かつてない高値が続いています。新型コロナウイルスは5月に5類移行後も弱毒化しながらも流行しており、いまだにマスクを外せずにいる人が多いです。

さて、全国で4年前に貼られた褪せた水色のチラシが今でも役所や学校などの廊下やエレベーターの中に掲示されています。指の又から手首まで洗って、マスクを外さず、会話もしないという可愛い丸顔アバターの例のやつです。

もう皆さんの頭の中に染み込んでいるかもしれませんが、「爪は短く切っておきましょう」から始まり、①流水で良く手を濡らした後、石鹸をつけ手のひらをよくこすります。②手の甲をのばすようにこすります。③指先・爪の間を念入りにこすります。④指の間を洗います。⑤親指と手のひらをねじり洗いします。⑥手首も忘れずに洗います。これは外科医の手術時の消毒レベルですが、皆さん実践していますか。剥がしそびれたこのチラシをいつまで貼り続けるのでしょうか。剥がしてもマスクを外しても、もう誰も非難しませんよ。

危機管理コンサルタント 越智文雄の 時論・持論・自論

〈第21回〉コロナ禍を振り返って



日本政府は新型コロナウイルスの5類移行の後に、9月に内閣感染症危機管理統括庁を設立し、日本版CDCとして次に襲ってくるパンデミックに備えています。12月下旬、この内閣感染症危機管理庁を訪れ、筆頭参事官に今後の感染対策に対する業界としての提言書を手渡してきました。

内閣感染症危機管理統括庁には、何が起きるかわからない次の未知のパンデミックに備えて感染対策を科学的に評価してマニュアル化し、対策資材を国家備蓄することを提言しました。これには、NITE（製品評価



▲内閣感染症危機管理統括庁に提言

提言書

内閣感染症危機管理統括庁
感染症危機管理統括審議官 殿

世界的な未曾有の体験だった新型コロナウイルスのパンデミック感染対策については、本年5月に2類から5類への医療対策分類変更により社会的には一旦の収束は見られました。

しかしながら、その社会経済、国民生活に与えた影響と後遺症は大きいものがあります。9月に設立された内閣府感染症危機管理統括庁はこの3年半に及ぶ社会的な選択と決断の分析評価、反省のもとに、これからの感染対策危機管理を行っていくことが期待されています。

中でも、新型コロナウイルスの対策が迷走した原因のひとつに世界的に早くから発表されていた「空気感染」を原因とすることに対して、日本では接触感染と飛沫感染に限定して対策し続けたことが感染拡大のひとつの原因であったと評価されています。その原因認定の遅れにより空気中のウイルスを不活化するに有効な資材と方法を積極的に活用し得なかった事は、我々の業界としても至極残念なことであります。

ついでに、内閣府感染症危機管理統括庁におかれては、次に発生する感染症の危機的状況に備えて、有効な空気感染対策の資材と方法について、事前に十分な調査と評価を行いその活用に向けての危機管理マニュアルの策定を急ぐべきです。

特に、新型コロナウイルス、新型インフルエンザ、鳥インフルエンザ、ノロウイルスほか多くの感染症に効果があることが実証されている次亜塩素酸水溶液による空間除菌については2020年6月の政府試験発表結果を関係者が誤って報道したことに帰する風評の被害がまだに存在し、世界中で使われている空気感染対策が日本では十分な位置づけがされていないのが現実です。

内閣府感染症危機管理統括庁におかれては、専門家の研究結果、学会発表、国内外での実用状況など十分な評価を行った上で、政府感染マニュアルに位置付け、感染症拡大危機時のための政府備蓄資材として実装していくことを提言します。

2023年12月11日

一般社団法人次亜塩素酸水溶液普及促進会
代表理事 越智文雄

▲この提言書を手渡した

技術基盤機構）評価委員でもある三重大学・福岡智司教授もオンラインで参加し、感染対策の現状と評価についてレクチャーも行いました。

次亜塩素酸水を 陥れる利権工作

本稿でも何度か記載していますが、この足掛け4年になるコロナによる社会混乱の中で、ワクチン問題と並んで政府の対策とメディア報道で混乱を極めたのが次亜塩素酸水の空間噴霧問題です。ワクチンでは接種の副作用で数千人が亡くなったといわれていますが、政府は420人に4420万円の補償金を支払いました。

ワクチン反対派の人は一緒にするなと怒るかもしれませんが、もしかしたら国民の健康と命を無視した利権に国が加担したという意味では、これより大きな薬害エイズ事件級の陰謀が次亜塩素酸水封じの利権工作です。

2020年春先に消毒用アルコールが払底し、その代わりに洗剤や次亜塩素酸水が有効なのではないかということで政府が実証試験を行いました。5月末の中間報告で、「新型コロナウイルスの不活化に有効である」という試験結果を無視して、「次亜塩素酸水は危険である。WHOはこれを認めていない」という報道がNHKから流されました。当時の『おはよう日本』で人氣キャスターの口から流された全国ニュースは一気に全メディアに広がり、本来であれば新型コロナウイルスも、新型インフルエンザも、ノロウイルスも、鳥インフルエンザにも、プール熱にも有効な次亜塩素酸水が日本中で使われなくなってしまうとしました。現在、業界の有志企業が修正報道を流すように訴訟を起こしていますが、NHKはいまだに誤りを認めていません。

新型コロナウイルス対策

注意！次亜塩素酸ナトリウム（塩素系漂白剤）とは別のものです。

「次亜塩素酸水」を使ってモノのウイルス対策をする場合の使用方法

拭き掃除には、有効塩素濃度80ppm以上のものを使いましょう

※ジクロロイソシアナタム酸ナトリウム等の粉末を水に溶かしたものを扱う場合、有効塩素濃度100ppm以上のものを使いましょう。※その他の製品によるものは、製品によらず、必要な有効塩素濃度は同じです。

- ①汚れをあらかじめ落としておく

目に見える汚れはしっかり落としておきましょう。
- ②拭く対象物に対して十分な量を使用すること

用法・用量を守りましょう。
- ③きれいな布やペーパーで拭き取る

20秒反応させた試験を行い有効性を確認しています。

安全上の注意

- 製品に記載された使用上の注意を正しく守ってください。
- 希釈用の製品は正しく希釈して使いましょう。
- 酸と混ぜたり、塩素系漂白剤と混ぜたりすると、塩素が発生する危険があります。（また、物によっては、塩素が臭い発生している可能性に注意してください。）
- 人が吸入しないように注意してください。人がいる場所で空間噴霧すると吸入する恐れがあります。
- 濃度が高いものを使う場合、直接手をふれず、ゴム手袋などを着用してください。

効果的に使うためのポイント

- 使用の際は、酸性度（pH）・有効塩素濃度や使用期限等を確認しましょう。
- 有機物に弱いので、汚れを落としてから使用してください。
- 紫外線に弱いので、遮光性のボトル等を使用し、冷暗所に保管しましょう。

本資料は、2023年4月26日現在の知見に基づいて作成されたものです。修正されることがあります。

厚生労働省 経済産業省 消費者庁

新型コロナウイルス対策

注意！次亜塩素酸ナトリウム（塩素系漂白剤）とは別のものです。

「次亜塩素酸水」を使ってモノのウイルス対策をする場合の注意事項

アルコールとは使い方が違います

拭き掃除には、有効塩素濃度80ppm以上のものを使いましょう

※ジクロロイソシアナタム酸ナトリウム等の粉末を水に溶かしたものを扱う場合、有効塩素濃度100ppm以上のものを使いましょう。※その他の製品によるものは、製品によらず、必要な有効塩素濃度は同じです。

- ①汚れをあらかじめ落としておく

目に見える汚れはしっかり落としておきましょう。
- ②十分な量の次亜塩素酸水で表面をヒタヒタに濡らす

アルコールのように少量をかけるだけでは効果は低いです。
- ③少し時間をおき（20秒以上）、きれいな布やペーパーで拭き取る

20秒も時間をおく必要はありますが、きれいな布やペーパーで拭き取る必要があります。

安全上の注意

- 製品に記載された使用上の注意を正しく守ってください。
- 希釈用の製品は正しく希釈して使いましょう。
- 酸と混ぜたり、塩素系漂白剤と混ぜたりすると、塩素が発生する危険があります。（また、物によっては、塩素が臭い発生している可能性に注意してください。）
- 人が吸入しないように注意してください。人がいる場所で空間噴霧すると吸入する恐れがあります。
- 濃度が高いものを使う場合、直接手をふれず、ゴム手袋などを着用してください。

効果的に使うためのポイント

- 使用の際は、酸性度・有効塩素濃度や使用期限等を確認しましょう。
- 有機物に弱いので、汚れを落としてから使用してください。
- 空気中の浮遊ウイルスの対策には、消毒剤の空間噴霧ではなく、換気が有効です。

本資料は、2023年4月26日現在の知見に基づいて作成されたものです。修正されることがあります。

厚生労働省 経済産業省 消費者庁

▲厚生労働省、経済産業省、消費者庁による3者連名の「ヒタヒタ。チラシは業界団体と議連の抗議で左図から右図のように変わった

親の見舞いにも行けず看取りもできず、葬儀すらできなかった方々、あらぬ風評で倒産させられた飲食店、死屍累々の失業者たち。この時期、自殺者も突出したことが記録に残っています。これを防ぐために、感染を収束させるために次亜塩素酸水や二酸化塩素、オゾン、紫外線、空気清浄器など多くの資材や製品が世の中に出ましたが、政府が推奨したのは手指消毒や手すりを拭くためのアルコールとアクリル板だけでした。実力で市場を席巻した米国製の空気清浄機もありますが、いまの危機管理統括庁も厚労省も、現実的な感染対策の資材や機材について調査も評価もしていません。

海外観光客がコロナ前の水準を超えたという、目出たいニュースが流れています。しかし、プリンセスダイヤモンド号からあつという間に広がった新型コロナウイルスパンデミックのように、この冬に新しいウイルスが持ち込まれたとき、手段も備蓄もない

ままはどう危機に立ち向かうのでしょうか。

平時のうちに備えるのが危機管理です。コロナパンデミックのときに「正しく恐れよ」と専門家が警鐘を鳴らしました。医学、科学の本当の専門家たちのどここの利権にも政治にも左右されない実験と評価をもとに、海外の事例と成功例を調査して次に備えなくてはなりません。

社会を縮小させ、文化も経済も未曾有の混乱となり、いまだに精神的、経済的な後遺症を与え続けているこの社会災害を検証して反省して新たな対策を備えておかなくてはなりません。

一昨年、厚労省から全国の保健所に対し次亜塩素酸水への風評を正す事務連絡がだされています。しかし、いまだに根強い風評で次亜塩素酸水は「お勧めしない」という誤った見解を表明している保健所があります。メソもあつてはつきり書ききらなかった厚労省の通達が曖昧なせいなのですが、感染対策を資

活用して感染を予防しようというチラシではなく、「次亜塩素酸水はアルコールのように効果がない。テーブルの上をヒタヒタにして20秒以上たないと消毒できない。空気中に噴霧すると危険である」という注意喚起のチラシです。

これを見た国民は到底使う気になるはずがなく、今まで次亜塩素酸水を使って感染対策をとっていた多くの病院や介護施設、学校、保育園でも空間気化用の加湿器を引き上げました。

そしてクラスターが広がり、帯広では自宅待機の児童から父親に感染し死亡しました。札幌の介護施設茨戸アカシアハイッツでも所蔵していた大型次亜塩素酸水噴霧器の活用をDマツトに止められ、結果17人の入居者がお亡くなりになっています。

このチラシはNITE評価委員会の誰ひとり目にすることなく、事務方がどこかの広告代理店に外注して作ったもので、悪意と嘘の塊の作品でした。厚労

省からもトカゲの尻尾切りをされたのか、厚労省ホームページの問い合わせ先には22年に退職してどちらかの知事選に立候補した当時の参事官の名前が消されずに放置されています。

現在、東京地裁で厚労省に対する損害賠償訴訟が進められています。口頭弁論では裁判官から「このヒタヒタというのはいったい何か」という指摘がされ、被告と原告双方に対して、テーブル上を消毒するにあつての科学的根拠とヒタヒタ状況を説明する動画の提出が求められています。

根拠のない捏造をどこかの代理店が厚労省に付度してデザインしたもののですから、科学的な再現などできるはずがありません。どうする厚労省。

「コロナを総括し反省すべき」

コロナでもっとも苦しんだ人は誰でしょう。発症して高熱で苦しんでお亡くなりになった方、

アルコールでは空間消毒は出来ません。次亜塩素酸ナトリウム（ハイター、ブリーチなど）は劇薬で、安全な次亜塩素酸水が封じられたため、やむなく薄めて使う方法が広まりました。保健所も自治体も風評に惑わされず正しい判断で事実を検証して次の感染に備えてください。

厚労省やNHK、メディアとの対応経緯やエビデンス、安全性、使用例、海外事例など多くの情報を載せているので「次亜塩素酸水溶液普及促進会議」のホームページで検索してください。

◆ ◆ ◆

《訂正》2024年1月号の本稿4ページ目（189頁）の写真のキャプションに誤りがありました。「ナトリウム灯2023年4月出荷停止」と記載したのは正しくは「ナトリウム灯 2024年3月出荷停止」です。

《筆者略歴》
橋あかりみらい代表取締役。北海道大学卒業後、北海道電力入社。電気事業連合会企画部副部長、北海道洞爺湖サミット道民会議事務局次長、北海道経済同友会などを歴任。電力業界で初代の危機管理担当室長の経験から自治体・企業へのアドバイザーとして活躍。環境・エネルギー問題の専門家。（一社）次亜塩素酸水溶液普及促進会議代表理事、日本除菌連合の会長を務める。札幌にかがでる経済人ネットワーク主宰。